

Photo by 田代法生



## E.A.R. DACute

¥764,400 (Black 仕様)

\*¥837,900 (Chrome 仕様) もラインアップ

**Spec** ● DA コンバーター: 24 ビットマルチレベルΔΣコンバージョン ● 入力: USB × 1、S/PDIF × 2、Optical × 1 ● 出力: RCA × 1、XLR × 1 ● 使用真空管: PCC88 × 2、6DJ8 × 1 ● サイズ: 435W × 95H × 320Dmm ● 取り扱い: ヨシノレーディング (株)



入りにUSB×1、S/PDIF×2、Optical×1を備え、出力にはRCA、XLRをそれぞれ1系統装備する

# 独自設計のフィルターと出力トランスを採用 アナログな響きをデジタル音源から紡ぎ出す

アナログ時代からの音楽ファンが  
望んでいた製品ではないか

E.A.R.を主宰するティム・デ・パラヴィーニは、独創的な回路の管球式アンプをリリースし評価を高めてきた。さらに民生用だけでなくプロ用機器のモデファイやE.A.R.ブランドとして業務用機器を制作しスタジオへ導入するなど、録音スタジオやミュージシャンからの信頼も厚い。そんな彼が送り出してきたDACuteは、デジタル音源からアナログサウンドの心地良さを引き出すことを目的として挑戦した、ミュージカルDAコンバーターという。同社リリースには、「まるでアナログのようなデジタルサウンド。考えてみれば滑稽な表現かもしれませんが、それなら初めからアナログを聴けばいい、それは限りなく正解に近い回答かもしれない」と書かれている。これは個人的に共感が持てる部分だ。しかしアナログ時代から音楽を聴いてきたファンにとっでは、本機のような機械を欲しい、と思う人も多いのではないだろうか。本機は同軸と光、USBと3系統のデジタル入力を用意している。そして光では96kHzまでのデータに対応できる。アナログ出力はRCAとXLRの2系統を備え、音量調整機構も装備しておりデジタルプリアンプ的な使い方もできるので、トータルコストを低く抑えることもできるだろう。詳細な情報はないが、DAC部の構成は24

bit ΔΣ方式で、ティムが設計したアナログ・フィルターを通過した信号は、2本のPCC88とトランスが結合した管球式トランスカップリングを備えた出力段から出力される。

深みのある響きや温度感など  
CD音源がアナログに近い感覚に

アナログといってもテープとディスクでは異なるので、本機がどのようなサウンドを求めたのかは不明だが、いつも試聴に使っているCD音源がアナログに近い感覚の音で再現されたのは確かだ。特にアナログマスターから高音質CD・R化した「グリーン・スリープス」では、ウッドベースの深みのある響きやキックドラムのリアルな音圧感、ピアノのコード(和音)の厚みなど、アナログマスターに近くように感じた。また60年代に高い人気を獲得していたPP&Mのベスト盤も、アナログ音源だけにアナログで聴いた昔の音を思い出させるし、音像の実体感、3声の自然な温度感なども通常では得難いものだ。しかし最新デジタル録音の高音質ソフトなどでは、そのソフトが持つデジタルならではのメリットが生きない可能性もあるかもしれない。しかし、CD以前にアナログ盤で聴いていたお気に入りの作品のリマスタリングCDを聴き、何処か違和感を覚えたという経験を持つファンも多いだろう。本機は、それを解消してくれる可能性を持つ製品なのではないかと思う。

TEXT  
小林 貢  
Mitsugu Kobayashi